

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年3月31日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22300217

研究課題名（和文） C.H. マックロイの中国と日本における影響に関する総合的研究

研究課題名（英文） Research on the Influences by the C.H. McCloy's Theories to China and Japan

研究代表者

楠戸 一彦 (KAZUHIKO KUSUDO)

広島大学・大学院総合科学研究科・特任教授

研究者番号：00108268

研究成果の概要（和文）：

本研究は、1946年に「対日アメリカ教育使節団」の一員として来日した C.H.マックロイ (1886-1959) の実践と理論が中国と日本に与えた影響について、まず中国で活動した時期 (1913-1926) における実践と理論を中国の国立文書館や大学図書館及びアメリカの公立図書館と大学図書館で調査を実施した。次いで、調査結果に基づいて、マックロイの体育思想の中国と日本への影響について考察を進めた。これらの研究成果については、学会で発表すると同時に、学術誌に投稿し、『研究成果報告書』を作成した。

研究成果の概要（英文）：

In order to make clear the influences of C.H. McCloy's (1886-1959) practices and theories in physical education to China and Japan, who had come to Japan as a member of "The United States Education mission to Japan" in 1946, we firstly researched the historical sources during his activities from 1913 to 1926 in China at the University Libraries and National Archives both in China and U.S.A.. Secondly, based on the results of these researches, we studied the influences of his thoughts in the physical education to Japan and China. The results of our studies were presented in the academic meetings, were written for the academic journals, and published in the "Report of the Research Results".

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2011年度	5,500,000	1,650,000	7,150,000
2012年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
総計	13,100,000	3,930,000	17,030,000

研究分野：総合領域（スポーツ史）

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・スポーツ科学

キーワード：スポーツ史，マックロイ，中国，アメリカ

1. 研究開始当初の背景

本研究プロジェクトの動機は、2008年8月に中国の大連理工大学で開催された第7回東北アジア体育スポーツ史学会における雑談に遡る。この学会に参加した鈴木明哲先生・崎田嘉寛先生・楠戸一彦そして学会を主催した大連理工大学の孫喜和先生は、昼食での雑談の中でC.H. マックロイのことを話題にした。即ち、1946年の「対日アメリカ教育使節団」の一員であるマックロイの日本への影響が話題になった時、孫先生がマックロイの中国での活動に言及した。この言及が科学研究費応募への動機となった。

科学研究費への応募には、次のような研究上の背景があった。即ち、(1) 日本におけるマックロイ研究が1946年の『対日アメリカ教育使節団報告書』(以下、『使節団報告書』)の分析に限定されている。(2) 中国におけるマックロイの活動が日本には全く知られていない。(3) アメリカにおけるマックロイの著作や論文に関する調査が不十分なままである。

2. 研究の目的

本研究では、中国と日本に散在するマックロイに関する一次資料を体系的に発掘し、基本資料を整理することが優先事項となろう。そこで、マックロイの活動を、中国で活動した時期(1913年から1926年)と、日本で活動した時期(1946年)に区分し、中国と日本およびアメリカにおいて資料の収集を行い、次いで収集した資料の内容分析を行なう。さらに、マックロイの体育理論が近代中国と戦後日本の体育分野に与えた影響について分析する。

(1) マックロイに関する一次資料の発掘

と整理。まず、中国国内に保存されている資料については、YMCA 体育部の幹事(1913年以降)と国立東南大学の体育系主任兼教授(1920年以降)の二つの時代に二分して、中国の研究者の協力を得ながら資料の発掘を行なう。マックロイは、中国語が堪能であり、中国語による著書・論文が相当数あるとされており、合理的に発掘し整理する必要がある。加えて、マックロイが直接的・間接的に影響を与えた人物や機関に関する資料を収集する。次に、日本国内に保存されている資料については、『使節団報告書』関係の資料に加えて、マックロイの影響を受けた日本の体育研究者に関する資料、マックロイの体育理論を援用して学校体育を展開した小・中・高等学校に関する資料を収集する。さらに、アメリカでは、マックロイが教鞭をとっていたアイオワ大学の図書館において、中国時代の資料の発掘を行う。

(2) マックロイの体育理論が近代中国と戦後日本の体育分野に与えた影響の複合的分析。マックロイの体育理論の複合的分析に当たっては、中国の研究者との密接な協力が必要である。近代中国の体育分野に与えた影響を明らかにする際の分析視点は、①マックロイの体育理論の普及過程(制度、内容、人物)、②マックロイの活動と中国の体育政策との齟齬、③マックロイの体育理論が中国で受け入れられた背景、などである。次に、戦後日本の体育分野に与えた影響を明らかにするための分析視点は、①マックロイの中国における活動が『使節団報告書』に反映されているのか、②『使節団報告書』の背景にあるマックロイの体育理論がどのようなものであったか、などである。

3. 研究の方法

本研究の目的を達成するために、研究代表者に加えて研究分担者（3名）（皇學館大学の中村哲夫先生、東京学芸大学の鈴木明哲先生、広島国際大学の崎田嘉寛先生）と研究協力者（1名）（中国の浙江師範大学の孫喜和先生）を組織した。本研究は歴史学的方法に基づいて、史料収集と史料の内容分析を中心に遂行された。

2010年度は、マックロイを直接的・間接的に対象とした先行研究を収集・分類・整理し、精細に分析することで、中国とアメリカに保存されている資料を発掘するための予備調査を行なった。2011年度は、前年度の成果に基づいて、日本国内の資料調査、中国及びアメリカに保存されている資料の第一次本調査を行ない、資料の学術的価値を検討しつつ次年度に実施する考察に備えた。2013年度は、中国国内に保存されている資料の第二次本調査、近代中国と戦後日本におけるマックロイの体育理論の影響に関する分析を行なった。

4. 研究成果

以下では、研究目的（マックロイに関する一次資料の発掘と整理、マックロイの体育理論が近代中国と戦後日本の体育分野に与えた影響の複合的分析）に添って、研究の成果を報告する。なお、本研究の成果の詳細については、報告書『科学研究費補助金（基盤研究（B））（平成22～24年度）研究成果報告書 C.H. マックロイの中国と日本における影響に関する総合的研究』（2013年3月、広島大学総合科学研究科スポーツ史研究室、231頁）（以下『報告書』と略）を参照されたい。

(1) 一次資料の発掘（『報告書』, VI. 海外

調査, 191-211頁参照) に関しては、2010年8月に中国の南京及び杭州において調査を実施した。即ち、南京師範大学、南京大学、東南大学、浙江大学の各大学図書館、江蘇省立図書館と浙江省立図書館及び中国第二歴史档案館において、民国期の体育関係とマックロイ関係の資料を確認し、コピーを入手した。2011年にはアメリカと中国において調査を実施した。即ち、2011年7月にはデトロイト公立図書館においてマックロイによる新聞記事を、同年10月にはアイオワ大学図書館においてマックロイのアメリカでの資料を確認し、コピーを入手した。特に、アイオワ大学での調査では、マックロイの中国滞在中の資料はアメリカにはほとんど存在せず、中国での調査が不可欠であることが判明した。同年12月には中国の上海と蘇州で調査を行った。上海では上海図書館と上海档案館において、民国期の体育関係雑誌と基督教青年会関係の雑誌を調査した。2012年8月には北京の中国第一歴史档案館と中国国家図書館において、マックロイ及び中国近代学校体育に関する資料調査を実施した。同年12月には、南京の中国第二歴史档案館において、マックロイの資料に関する補充的調査を行った。

中国とアメリカでの資料調査は「II. C.H. マックロイ関係の文献目録」として『報告書』（11-34頁）において公表されている。即ち、「C.H. マックロイの中国滞在期間中（1913-1926）の著作」（崎田嘉寛, 12-14頁）, 「C.H. McCloy 雑誌文献・著書目録」（崎田嘉寛, 15-22頁）, 「マックロイに関する著作」（崎田嘉寛, 23頁）, 「マックロイ関係文献目録」（孫喜和, 24-30頁）, 『『体育と競技』におけるC.H. マックロイ』（楠戸一彦, 31-32頁）, 『『Detroit Saturday Night』（1927）におけるC.H. McCloyの記事』（楠戸一彦, 33-34頁）である。

また、収集した資料のうち次のマックロイ論文を邦訳した（『報告書』, III. C.H. マックロイ関係論文の翻訳, 35-97 頁）。即ち、「中国における体育」（楠戸一彦, 36-42 頁）, 「体育と中国のデモクラシー」（孫喜和, 43-53 頁）, 「体育と民主主義の関係」（孫喜和, 54-55 頁）, 「民国十年之体育」（孫喜和, 56-58 頁）, 「民国十一年の体育」（孫喜和, 59-65 頁）, 「文化と体育」（中村哲夫, 66-78 頁）, 「体育とデモクラシー」（中村哲夫, 77-83 頁）, 「体育の哲学的基礎」（中村哲夫, 84-88 頁）, 「健康な生活：体育」（楠戸一彦, 89-97 頁）である。

さらに、収集した資料に基づく研究成果は学会（『報告書』, IV. 学会発表, 99-134 頁）及び研究会（『報告書』, V. 研究会の開催, 135-189 頁）において発表された。即ち、2011 年 8 月に中華民国の台南大学において開催された「第 9 回東北アジア体育スポーツ史学会」では、中村哲夫先生が「C.H. マックロイの体育論とその日本への影響について」と題して、崎田嘉寛先生が「C.H. マックロイの中国における研究活動と日本への影響に関する研究」と題して発表した。2012 年 5 月に福山平成大学において開催された「第 1 回体育史学会」では、鈴木明哲先生が「中国における C.H. マックロイ-陶行知との関係を中心に-」と題して発表した。同年 8 月に東海大学で開催された「第 63 回日本体育学会」では、中村哲夫先生が「C.H. マックロイにおける体育と民主主義との関係-アメリカ教育使節団報告書への影響-」と題して、崎田嘉寛先生が「中国における民主的学校体育の普及と C.H. マックロイの活動」と題して発表した。また、2012 年 8 月に広島大学東京オフィスで開催された「研究会」では、台湾からの参加者である王建臺先生と張生平先生が「麥克樂 (Charles Harold McCloy, 1886-1959) 對中國近代體育的影響及其歷史評價」と題して、鈴

木明哲が「中国における C.H. マックロイ-陶行知との関係を中心に-」と題して発表した。同年 12 月に中国の浙江師範大学体育与健康科学院で開催された研究会では、鈴木明哲先生が「中国における麥克樂の仕事-1926 年、帰国前の「推薦状」から-」と題して、崎田嘉寛先生が「『米国対日教育使節団報告書』の中国への影響-『東方白』（鄭曉滄訳, 1947）を中心に」と題して、楠戸一彦が「アドルフ・シュピース (1810-1858) の近代学校体育への影響」と題して、孫喜和先生が「麥克樂研究的総述及分析」と題して発表した。

(2) マックロイの体育理論が近代中国と戦後日本の体育分野に与えた影響の複合的分析については以下の通りである。

① 近代中国の体育分野に与えた影響

マックロイが近代中国の体育分野に与えた影響は、当代有数の教育学者であった陶行知も認めるものであった。陶はマックロイの業績について、民衆への体育に関する原理や仕組みを発展させたこと、「徹底的な統計学的研究」、すなわち測定評価という彼の専門領域である得意分野を活かしながら、中国の体育に新しいシステムを構築し、その発展を支えたこと、を高く評価している。この評価の背景には、マックロイの類い稀なる中国語の能力と、民衆へのまなざしがあった。

具体的には、マックロイの中国語による膨大な論文、著作および講演から窺い知ることができる。学校体育分野に限定して言及すれば、東南大学への奉職を機に、理論的側面においては体育・スポーツの民主的側面あるいは文化的側面の啓発、実践的側面においては教員養成、体育行政、体育カリキュラム試案の提言を行なっている。また、彼は中華教育改進社を通じて、中国各地の学校体育の状況を調査し、身体・医学検査の実施、科学的知

見に基づく学校段階毎の運動標準の規定、体育カリキュラム作成などにも従事している。しかしながら、政治的・経済的混乱状況から、彼の理念が真に制度化されるには至らなかった。ただし、彼自身も長期的で緩やかな体育・スポーツの普及・展開を念頭においていたと推察される。このため、民主的な体育・スポーツの導入期における彼の貢献と影響は、甚大であったと言える。

②戦後日本の体育分野に与えた影響

マックロイが戦後日本の体育分野に与えた直接的な影響は『使節団報告書』の「体育」の項目においてである。内容を素直に読めば、体育・スポーツを手段とした民主主義教育の側面が重視されている、と捉えることができる。また、この点に関連する内容に限定すれば、占領期間中におおよそ実現され、彼の影響を認めることができる。

しかしながら、『使節団報告書』で彼が真に強調しようとした点は、上記内容ではないことは、草案として位置づけられる「Physical Education」という勧告文から明らかである。彼は1920年代以降の中国における学校体育の状況（アメリカも含む）と比較して、日本の学校体育を高く評価し、またその潜在能力に確かな期待を抱いていた。そのため、日本の学校（体育）には、もう一段高い要望として、「体育・スポーツそのものの民主化」に重点を置くよう勧告がなされている。すなわち、特定の階層（学校・教育機関）にだけ集約的に体育・スポーツが与えられるのではなく、学校に対して自らが中核となり家庭や地域社会における体育（スポーツ）の普及・進展をするよう勧告している。この点に関しては、占領期間という短いスパンでは評価できず、1960年代、70年代にまで視野を広げて考察し、歴史的な評価をしなければならない。この点が今後の課題となる。

③小括

マックロイの中国での活動と日本での活動を結ぶ、直接的な資料を発掘できたわけではない。しかしながら、両方を連結する状況証拠は、相当数明らかにできたと考えている。また、時系列的に「中国→日本」という一方向的な展開だけではないことも明らかとなった。これは、『教育使節団報告書』が、1947年に鄭曉滄によって翻訳され『東方白』として中国に頒布されているからである。

(3)研究成果と課題

本研究は、わが国のこれまでの体育史研究において注目されてこなかったC.H.マックロイの中国での活動の一端を解明し、また戦後日本の体育分野に与えた影響を新たな観点から解明したことによって、国内外の体育史研究、特に東北アジアの体育史研究に対して重要なインパクト与えることができた、と言えるであろう。他方、中国におけるマックロイの活動の詳細や、彼と陶行知の関係など、今後の研究において解明されなければならない課題も見つかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計2件）

1. 鈴木明哲, 崎田嘉寛, 中村哲夫, 楠戸一彦, 中国の体育におけるC.H.マックロイの功績と貢献: 陶行知との接点を手がかりに, 体育学研究, 査読有, 巻無し, 2013。
(<http://dx.doi.org/10.5432/jjpehss.12052>)
2. 鈴木明哲, 崎田嘉寛, 中村哲夫, 楠戸一彦, 対日アメリカ教育使節団C.H.マックロイについて: 飯塚鉄雄氏に聞く, 東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系, 64巻, 査読なし, 2012, pp.101-111。
(<http://hdl.handle.net/2309/131954>)

[学会発表] (計5件)

1. 中村哲夫, C.H. マックロイにおける体育と民主主義との関係ーアメリカ教育使節団報告書への影響, 日本体育学会第63回大会, 2012年8月24日, 東海大学。
2. 崎田嘉寛, 中国における民主的学校体育の普及とC.H. マックロイの活動, 日本体育学会第63回大会, 2012年8月24日, 東海大学。
3. 鈴木明哲, 中国におけるC.H. マックロイー陶行知との関係を中心にー, 第1回体育史学会, 2012年5月13日, 福山平成大学。
4. 中村哲夫, C.H. マックロイの体育論とその日本への影響について, 第9回東北アジア体育スポーツ史学会, 2011年8月23日, 台南大学 (中華民国)。
5. 崎田嘉寛, C.H. マックロイの中国における研究活動と日本への影響に関する研究, 第9回東北アジア体育スポーツ史学会, 2011年8月23日, 台南大学 (中華民国)。

[図書] (計1件)

1. 楠戸一彦, 中村哲夫, 鈴木明哲, 崎田嘉寛, 孫喜和, 王建臺, 張生平, 広島大学総合科学研究科スポーツ史研究室, 科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書: C.H. マックロイの中国と日本における影響に関する総合的研究, 2013年, 231頁。

[その他] ホームページ

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/kkusudo/Hisport/index.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

楠戸 一彦 (KAZUHIKO KUSUDO)
広島大学・大学院総合科学研究科・特任教

授

研究者番号: 00108269

(2) 研究分担者

中村 哲夫 (TETSUO NAKAMURA)

皇學館大学・教育学部・教授

研究者番号: 80164317

鈴木 明哲 (AKISATO SUZUKI)

東京学芸大学・教育学部・准教授

研究者番号: 70252947

崎田 嘉寛 (YOSHIHIRO SAKITA)

広島国際大学・工学部・講師

研究者番号: 60390275

(3) 連携研究者

()

研究者番号:

(4) 研究協力者

孫 喜和 (SUN XIHE)

浙江師範大学・体育与健康科学院・准教授